

「ソンマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査プロジェクト」 プロジェクト設置責任者からみなさまへ

2002 年以來つづけてきた発掘調査を続けられるか…？！

その瀬戸際で、「緊急支援のお願い」を、5 月中旬から 6 月末までの期間、よびかけさせていただきました。

調査のミニマムな存続を可能にする 1500 万円のゴールを 1 ヶ月で達成し、このたび従来規模の調査を可能にする金額として設定した 3000 万円のネクストゴールに近づく 27,873,600 円ものご寄付を賜りました。

おかげさまで、中断なく今年度の発掘調査を行うことが可能になりました！

この呼びかけのために勇気をふるって出した声は、私たちの期待をこえ、多くの方々に届き、ご支援と応援をいただくことができました。

温かいご支援をくださったすべての皆様に、スタッフ・関係者一同、心よりの感謝を申し上げます。

「どうして日本がイタリアで調査をやらなくてはいけないのか」「東大ならめぐまれているはずだ」という声も寄せられました。しかし、今日さまざまな学問と教育をめぐる環境は、かつてないほど厳しいものになっています。私たちの考古学調査は海外で行う学際的・国際的なもので、人類史の謎に迫るべく、24 年間継続されてきました。それは、国際的共同によって進められる研究の現場に、日本の大学として参加することでもあります。ユネスコに代表されるように、今日の考古学研究や文化遺産の保護活動は、国境や世界の対立を超え、世界の文化と歴史を未来に守り伝え、観光や地域の社会の発展をめざしつつ進められています。そして、自然科学と人文学が共同するこのプロジェクトは、地震学者・火山学者と協力し、明日の私たちの命を守る災害考古学の発展にもつながっています。

ソンマ・ヴェスヴィアーナ古代遺跡での私たちの調査研究に寄せられた多くの方々からのご支援とあたたかい応援のメッセージに、未来への可能性と勇気をいただきました。

これからも、できる限りの成果をみなさまにお伝えしながら、ともに分かち合いながら、さらに日々の努力を重ねていく所存です。

今後も厳しい財政状況が続く中、引き続きみなさまからのご支援と応援がいただけますよう、あらためてよろしくお願い申し上げます。

「ソンマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査プロジェクト」設置責任者
東京大学大学院総合文化研究科 教授
村松 眞理子